令和２年度第２回史跡根城跡整備活用検討委員会　議事要旨

日　時：　令和２年 12 月 21 日（月）13:30～15:30
場　所：　八戸市博物館体験学習室

出席委員　６名

工藤竹久委員長　北野博司副委員長　倉原宗孝委員　熊谷隆次委員
宮野則彦委員　柳谷強委員

指導・助言

葛城和穂（青森県教育委員会文化財保護課）

事務局

博物館　小保内館長　下村副館長　船場主幹　中村史跡根城整備専門員
社会教育課　杉山主幹
(有)ウッドサークル　中田　曽根田

次第

１．開会
２．会議
　(1) 史跡根城跡第２次整備基本設計について
　(2) その他
３．閉会

資料

１　令和２年度第２回史跡根城跡整備活用検討委員会　協議資料
２　第１回委員会指摘事項と対応検討

参考

① 令和２年度史跡根城跡活用ワーキング会議　昆虫動物編　議事要旨
② 令和２年度史跡根城跡活用ワーキング会議　草木編　議事要旨

２．会議

（１）史跡根城跡第２次整備基本設計について

・モデルコースの検討　本丸南側を通るコース

◎事　務　局　：モデルコースの検討についてです。西ノ沢方面から本丸南側の堀外側を通るコースを検討出来ないかというご意見と、本丸西門から西ノ沢に降りるコースを検討出来ないかという二つのご意見を頂戴しておりました。

まず本丸の南側を通るコースについてですが、このコースは隣接する国道の交通量が多く事故が多いことと、道幅が狭いことから、安全管理上コースを設置するのは困難であると考えました。

○工藤委員長　：実現は難しいということですが、柳谷さんどうでしょうか？

○柳 谷 委 員　：国道沿いのルートについては、やむを得ないということがわかりました。下町側に新規に設置する「根城の構え探求コース」についてですが、想定している長さはどのぐらいになるのでしょうか。

◎事　務　局　：往復で１キロ程度になります。

○工藤委員長　：コースの説明を行う際は、距離の記載もお願いします。

・モデルコースの検討　本丸西門を通るコース

◎事　務　局　：次に本丸の中から西門を通って西ノ沢へと至るルートについても検討を行いました。この部分の傾斜は特にきつく、下るのが難しいのではないかという結果になりました。よってこちらを出入り口にするのは難しいという結論に至りました。

○工藤委員長　：倉原先生、活用も交えて考えるといかがお考えでしょうか。

○倉 原 委 員　：ご説明いただいた内容で異論はございません。西門を通るコースは現実性が低いでしょうかね。

◎事務局　：上ることはできると思いますが、下るのが難しいと思います。この場合手すりを設置するなどを検討しなければなりませんが、これには地形変更が必要です。

○倉 原 委 員　：料金管理よりも、安全性の確保という意味で難しいということですか。

◎事　務　局　：料金管理も課題です。西門を動線にすると、ここに人を置くことも検討しなければなりません。

○倉 原 委 員　：西ノ沢まで来ていただいた来場者の方をただＵターンさせて戻らせるのはもったいないのかなと感じました。せっかくここまで来てもらったのだから、この場所に意味を持たせた方が良いのではないでしょうか。西ノ沢は自然が豊かな場所ですので、お城としての魅力以外にも色々な魅力があると思います。なにかこの場所に自然や、歴史的に関係する解説があると、ここまで足を運んだ意味のようなものが生まれると思います。道路の向こう側の岡前館の方へ意識を向けさせるのも良いのかもしれません。

○工藤委員長　：西ノ沢の歴史的な意味の紹介についても検討していただきたいです。

・案内解説板の意匠　デザインコンセプト

◎事　務　局　：次に案内板や解説板の設置についてです。看板類の設置位置については、前回の委員会でご説明させていただいた内容から大きく変更はしておりません。

また前回の会議では、案内板類のデザインはコンセプトを持って統一感のある仕様にしていただきたいというご意見を頂戴しておりました。こちらについては資料 10 ページにお示ししましたとおり、史跡の景観に調和した軽快な意匠にすることと、読みやすい表示面とするという二点を方針とし、デザインを決定いたしました。

案内板類の耐用年数は 20 年を想定しています。また多言語化や解説内容の補完に関しては、QR コードを用いた解説アプリの導入を検討しています。

○北 野 委 員　：趣旨についてはよろしいかと思います。少し気になるのは多言語についてです。解説板の全てを英語表記する必要はありませんが、英語表記するものとしないものはわけた方がよろしいでしょう。版面はシンプルでコンパクトなものがよいと思いますし、当然内容はわかりやすいものにしていただきたいです。

○工藤委員長　：いただいたご指摘をもとに、実施設計時に再度検討して下さい。

当初整備から 25 年程経過していますが、解説版の内容について、熊谷先生から何か質問はございますか。

○熊 谷 委 員　：文章の内容もそうですが、解説板にどこまでフリガナを振るかについてももう少し検討をお願いしたいです。解説板の標題だけにフリガナをふるのか、あるいは解説の文章にもフリガナを振るのかなどですね。

他にも、「北門」などは博物館が任意につけた名前だと思うのですが、こういうものの扱いをどうしていくのかについても考えていただきたいです。

解説板の文章を英語にするのは相当難しいだろうなと思いますね。

○工藤委員長　：以前英語版のパンフレットを作成したことがありますが、作るのは相当難しかったですね。英語の専門家の方に頼んでも難しかったです。

QR コード導入するということですが、これは直ぐに対応できるものなのでしょうか。

◎事　務　局　：アプリの導入は年度内を予定しております。導入予定のアプリは、博物館の収蔵資料管理システムに付属するもので、写真と文章による解説を想定しています。また解説文を複数言語用意しさえすれば、アプリでも複数言語の解説が可能になるというものです。当面は日本語解説の整備を進めていく予定で、順次多言語化を進めていきたいと考えています。

まずは既存の解説板類に QR コードを貼り付け、アプリを使えるようにする計画です

・案内解説板の意匠　移動式注意看板

○北 野 委 員　：移動式の注意看板についてです。いただいた資料では、この看板のコンクリート土台の重量を 60 キロと想定しています。このサイズ・重量にした理由を教えて

いただきたいです。
移動できる看板というのはとても良いと思います。冬季は倉庫等へ移動させることもできますしね。それと基礎の色合いはコンクリートのイメージで考えているのでしょうか。
◎事　務　局　：14 ページに詳細図がございますが、基礎部分は偽石コンクリートで検討しています。地下の掘削をしない様に据置型を考えました。風が強い場所であることと、凍上対策を考えるとこの程度の大きさは必要であろうと考えました。
また冬季も移動せずに、同じ場所に出し続けることを前提に考えています。
○北 野 委 員　：冬季も片づけないということを前提としているのであれば、このぐらいのサイズでも良いのかなと思います。細かいデザインについてはもう少し検討をお願いします。
◎事　務　局　：承知しました。

・下町部分の園路新設について
○工藤委員長　：下町に新規に設置する園路工事は掘削が必要なのでしょうか。
◎事　務　局　：北側に新規に設置する園路のうち、地下以降の掘削が発生するのはウッドクリーク舗装・軟質土系舗装・木道の三つの仕様の箇所に限られます。ウッドチップ固化舗装の部分も掘削が必要ですが、あまり深くは掘削しません。発掘調査を行っていない部分に関しては掘削深度の確認を行います。深さがない部分に関しては盛土対応を予定しています。
○工藤委員長　：施工前に深さを確認してから工事を進めてください。
◎事　務　局　：ウッドチップ固化舗装は地元で採取できるウッドチップ材をセメント系固化材で固めたものを想定しています。表面は洗い出して木片が見えるようにしてトップコートで仕上げるもので、透水性と耐久性もあります。劣化してきた場合は、表面を削って再度トップコート仕上げをすることで補修が可能です。
○北 野 委 員　：寒冷地での使用にも耐えうるものなのでしょうか。
◎事　務　局　：長野での施工実績もありますし、寒冷地での使用にも適しています。
今ご覧いただいているサンプルはチップが大きいもので、穴も目立ちますが、チップ材をもっと小さいものにすれば、より平坦で穴の目立たないものにすることも可能です。

会場換気のため一旦休憩

・注意看板（本日休館）の更新
◎事　務　局　：休館案内の看板は、現在旧八戸城東門前と本丸木橋前に設置しています。この２箇所の看板は差し込み式のものに更新したいと考えています。
○北 野 委 員　：旧八戸城東門前に設置する休館看板についてですが、この文章ですと無

料空間にも入場できないという印象をあたえることにはならないでしょうか。

○工藤委員長　：なるほど。地元の方はわかっていることでしょうけれど、初めて来た人には違ったように伝わってしまうかもしれませんね。文章についてもう少し検討をお願いします。

◎事　務　局　：調整いたします。

・タブレット貸し出しについて

○工藤委員長　：QR コード解説を導入するというお話しでしたが、スマートフォンを持っていない人に関してはどのような対応を考えているのでしょうか。

◎事　務　局　：博物館で、貸出し用のタブレットを用意する予定です。博物館入口と本丸入口での貸し出しを想定しております。無料 Wi-Fi にも対応する予定です。

○工藤委員長　：タブレットの大きさはどの程度でしょうか。

◎事　務　局　：B5 判程度を想定しています。

○工藤委員長　：年配の方でも使えそうでしょうか。

◎事　務　局　：文字は大きくできます。

○北 野 委 員　：現状、コンテンツはあるのでしょうか。

◎事　務　局　：今年度契約し、これから徐々に入れていく予定です。

○北 野 委 員　：分かりました。多言語化対応だけであれば、リーフレットによる対応でも良いのでしょうけれど、タブレットを使えるとなると色々可能性が広がりますね。立体的な表現なんかが出来ると面白いですね。

◎事　務　局　：現在導入しているソフトでは、画像・音声・動画を入れることもできます。

○工藤委員長　：本丸内には奥御殿や常御殿など、復原されていない建物もあります。これらについてもタブレットを使えば見せられるようになるのでしょうか。

◎事　務　局　：タブレットの容量の問題もございますので、今後の検討課題とさせていただきたいです。

・園路広場計画

◎事　務　局　：次に園路計画についてご説明させていただきます。資料にもございますとおり、本丸内は土系舗装、下町部分はウッドチップ固化舗装ないしはウッドチップ舗装、水気の多い部分は木道の設置を想定しています。

※以下具体の設置範囲と仕様について事務局説明

前回の会議でご説明させていただいた内容から大きな変更点はございませんが、木道部分の設計について、多少の変更がございます。前回の会議で宮野先生から木道の木部と基礎の間にパッキンを入れるべきではないかというご意見をいただきました。これにつ

いては今回の設計に反映し、基礎パッキンを追加しました。
また前回の設計案では木道への乗り上げ部分を二段の階段としていましたが、これをスロープへと改めました。現在の木橋は、草刈り用の管理車両が通行しております。ここを階段にすると管理用車両の通行ができなくなるため、スロープへと設計変更しました。

〇宮 野 委 員　：木道・木橋部分に使用する基礎パッキンですが、プラスチック製のものを使うと紫外線で劣化する恐れはないでしょうか。

◎事　務　局　：プラスチック製で検討しています。パッキンの設置位置は木道の陰になりますので、紫外線の直接の影響は少ないと考えています。

〇宮 野 委 員　：分かりました。
滑り止めを目的とし、木道の床板に溝を入れるというお話しでしたが、この納まりですと、小口が見えてしまうこととなります。かえって水を吸いやすくなり、劣化を早めてしまう可能性があります。また、床板材は木裏側を上にして施工しないと反りにより水が溜まってしまうので注意が必要です。安全性を考えれば滑り止めが必要ですが、溝を入れると耐久性は落ちるでしょう。土が溝に溜まり、水分が留まると劣化が進んでしまいます。

〇北 野 委 員　：滑り止めの溝を入れるのではなく、ムシロを敷くなどすれば良いのではないでしょうか。木道の耐久性と安全性のバランスについて検討していただきたいです。

◎事　務　局　：床板に溝を設けず、チョウナ仕上げとすることも検討しましたが、予算がかなり上がってしまいます。いただいたご意見を反映し、木道の床板には溝を設けず、粗い表面仕上げにしたいと思います。

〇工藤委員長　：冬場に下町を通行する人はいますか。

◎事　務　局　：ご近所の方は広場内を通り抜けることも多いので、最低限の雪掻きは行っております。また雪の多い日などにはムシロを敷くなどして対応しています。降雪時の滑りについては、ハード面の整備ではなく、管理・運営の方法によって対応していきたいと思います。

・園路仕様の選定基準

〇工藤委員長　：いただいた資料を拝見すると、広場内の各所で園路の仕様を変えていますが、どのような理由で園路の使い分けを行っているのでしょうか。

◎事　務　局　：現状も使用している脱色アスファルト舗装は多くの方が利用し、車いすにも対応できるものと考えています。本丸内は現在の雰囲気を壊さないように土系舗装を選択しております。ウッドチップ固化舗装は下町側で使用していますが、これは自然の中を歩くイメージを想定し、景観に溶け込むものを選択しました。三番堀の堀底道はウッドチップ舗装としましたが、これは地面の掘削ができないため、この仕様を選択しました。

○北 野 委 員　：ウッドチップは放っておくと徐々に減っていってしまうので、定期的なメンテナンスが必要です。補充の材料は八戸でも購入できますよね。
◎事　務　局　：補充の材料は八戸でも購入可能です。
○北 野 委 員　：わかりました。
それとウッドチップ舗装で困るのは水気です。水気があるとすぐに朽ちていってしまいます。設置を想定している三番堀は日当たりが悪そうですが、水気については問題無いでしょうか。水がたまるようなことはありませんか。
◎事　務　局　：三番堀の堀底道は季節にもよりますが、湿性が高いということはありません。比較的乾いている印象です。

・擬木丸太階段踏面
○北 野 委 員　：擬木丸太で階段を作るとのことですが、上面を砂にすると、砂が流れるのではないでしょうか。
◎事　務　局　：図面では砂となっているが、砂利で検討しています。
○北 野 委 員　：砂利なら問題ありませんね。わかりました。

・木道の施工
○工藤委員長　：前回の会議では、木道の設置について市民参加で施工できないかという意見が上がりました。これについてはいかがでしょうか。
◎事　務　局　：具体的には決まっていません。活用の中で検討したいと思います。
○工藤委員長　：わかりました。
それと木道にすることによって、その部分が地盤より高くなります。転落等の対策もしていただければと思います。

・眺望確保計画　間伐
◎事　務　局　：資料 26 ページに眺望確保計画についてまとめてございます。眺望確保に関しましては、遺跡内部から遺跡外部への眺望確保、遺跡外部から遺跡内部への眺望、遺構保護を目的とした間伐、堀切の地被植栽による表現、の四項目に分け整理を行っております。
※以下事務局説明。
大銀杏の樹勢が弱っておりますので、この保護のためにも本丸北側の法面の間伐を行いたいと考えています。また本丸の南や西法面の樹木も高木になっておりますので、間伐を行いたいと考えています。東善寺館の北側あたりの樹木も高木になっているものや、樹勢の弱いものがありますので、間伐を行いたいと考えています。
○工藤委員長　：そもそも中世段階で、城館内に木はあったのでしょうか。

◎事　務　局　：法面保護のために多少は木があったようです。中世の絵図を見ると法面にも木は生えています。

○工藤委員長　：根城を史跡指定した頃の写真をみるとあまり木はありませんよね。ただ中世の段階で木があったのかどうかは文書が無いため分からないですね。

間伐を進めることで中世の風景に近付くのではないかという考え方もあるでしょう。

間伐も補助事業で考えているのでしょうか。

◎事　務　局　：地形に悪影響を与える可能性があるため、補助事業を想定しています。

○工藤委員長　：独立した事業ではなく、日々の管理の中で間伐を行うこともできると思うのですが、業者さんとの間に年間に何本までは間伐できるというような取り決めはあるのでしょうか。

◎事　務　局　：現在は計画的な伐採は行っていません。近隣にお住まいの方からご指摘をいただいた樹木や、枯死している樹木を選んで都度伐採していただいています。

○工藤委員長　：計画的な伐採を行っていないということは、これに関する予算は見ていないということですね。

今後の活用を考えて、残していきたい樹木もあるのでしょうか。

◎事　務　局　：植物の先生や動物の先生にご出席いただき、活用に関するワーキング会議を行っております。この会議内でいただいたご意見としましては、広場内にオオムラサキという珍しい蝶が卵をつける木（エゾヒノキ）があるのですが、これは保護した方が良いという指摘をいただいております。

またあまり管理をしすぎない方が良いのではないかというご意見もいただいています。昆虫やキノコなどについては、伐採した枝をそのまま残しておいた方が良い場合もあるので、管理の中で枯れ枝を片付けすぎないことによって観察対象が増えるのではないかというご意見もいただきました。

東善寺館北側の部分は新規に園路を整備する部分ですが、近接して枯死している樹木もあります。これについては伐採する必要があるというご指摘を頂戴しております。

○工藤委員長　：中館の国道側に生えている銀杏もかなり大きくなっていますね。これについてはどのような管理しているのでしょうか。

◎事　務　局　：枝が折れた場合になどには都度片づけております。

・眺望確保計画　地被植栽による堀の表現

○北 野 委 員　：堀切の表現をリュウノヒゲで行うということですが、園路の北側の部分だけリュウノヒゲの植生とし、園路の南側には何もしないというのは、誤った印象を与えることにならないでしょうか。現在園路の南側の堀の後はどのような使い方をしているのでしょうか。

◎事　務　局　：現在、園路の南側の部分にはショウブを植えています。

ご指摘のとおり、園路の北側と南側で別の植物を植えると一連の堀として認識されない可能性が高いと思います。これについては再度検討させていただきます。

○北 野 委 員　：資料の写真にあるような丈の長いリュウノヒゲを密植させると害虫が発生するのではないでしょうか。

◎事　務　局　：現在も博物館の周りや薬草園内にリュウノヒゲを植栽していますが、いずれも資料の写真にあるものよりも短くしています。リュウノヒゲで堀の表現を行うにしても、やはり同様に短く刈って管理したいと考えています。

・眺望確保計画　西ノ沢の土塁の間伐

○熊 谷 委 員　：資料 25 ページに西ノ沢の土塁に生えている樹木を間伐するとありますが、間伐をするとかえって表土が流れてしまう結果になるのではないでしょうか。
また、現在は 1 年間でどの程度の土が流れ、地形が変化しているのかについて確認をしているのでしょうか。

◎事　務　局　：現状は枝が密集しており、足元の草に陽が当たっていません。この為下草の育成が進まず黒土が流れ、地山が露出しています。これを防ぐためにも枝払いを行い、木々の下の地面に陽があたるようにし、雑草が生える環境を作り出したいと考えています。
また流出する土量の測定についてですが、昨年度地形測量を実施しておりますので、今後の地形の変化を把握することは可能です。

○熊 谷 委 員　：枝が無くなると雨が直接地面にあたるようになり、土が流れやすくなるような印象を受けるのですが。

◎事　務　局　：植物の先生からもお話しを伺ったのですが、日照を確保し下草を育てる方がメリットが大きいというご意見でした。

○熊 谷 委 員　：わかりました。

○工藤委員長　：間伐の実施については、観察を行いながら進めていただきたいです。綺麗にしすぎるのもかえって良くないでしょう。

◎事　務　局　：これまでは清掃で落ち葉を片づけすぎていたのかもしれないとも感じています。

・休憩施設の更新

◎事　務　局　：現状と同位置にベンチや野外卓を更新したいと考えています。基礎は既存のものを再用し、木製で更新したいと考えています。
また新規に園路を伸ばす部分にも、適宜ベンチを追加で設置したいと考えております。こちらについては基礎を設置しない据置型のものを想定しています。

○北 野 委 員　：野外卓やベンチなどの休憩施設は当然経年劣化によって傷んでくるもの

ですが、それとは別に日影にあるとか、湿気があるとか、設置場所の条件によって劣化が進むものもあるかと思います。利用状況の確認も大事ですが、設置場所が適当かどうかについてはもう一度検証をしていただきたいです。

・活用ワーキング会議の成果

○工藤委員長　：昨年の活用ワーキング会議で話題に上がった本丸の大銀杏を見るようなイベントは実施したのでしょうか。

◎事　務　局　：紅葉の時期に合わせ、十一月に十日間ほど本丸の無料解放を実施しました。広報や SNS での周知の他に、連合町内会の回覧板にもチラシを入れ、周知を行いました。

今年はコロナの影響もありますので、通常の比較は難しいのですが、いつもは見ることができない地元の親子の皆さんや、近所の方々の姿を本丸内で見ることができました。地元の方にも本丸の内部を知ってもらえる良い機会になりましたので、来年度も同様の企画を続けたいと考えています。

○工藤委員長　：本丸大銀杏の近くにも休憩所があった方が良いのではないでしょうか。

◎事　務　局　：樹木医の先生のお話しですが、大銀杏の樹勢が弱っているとのことです。あまり人が近づきすぎると、地面を踏み固めることになり、木に栄養が行かなくなるとのことでした。

○工藤委員長　：あまり木に近づかない距離で、休憩施設の設置を検討していただきたいです。

・木橋スロープ仕様

○宮 野 委 員　：資料 24 ページの木橋につくスロープの収まりについてです。スロープを支えている台木と、これを支えている歩道境界縁石の間にも基礎パッキンを入れた方がよろしいのではないでしょうか。

◎事　務　局　：この部分は厚さが確保できないので、木橋部分と同じ納まりにすることができません。他の方法を検討したいと思います。

○宮 野 委 員　：お願いします。

２）その他

・展示改修

○宮 野 委 員　：根城の復原建物では沢山のヒバ材が使われています。青森ヒバは全国的にも有名で、非常に腐りにくい良材です。地元の方に紹介する意味でも、ヒバ材が多く使われているということをもっとアピールするような展示や看板があっても良いと思います。素晴らしい材料をここまでふんだんに使っているのは珍しいことです。私も初

めて根城を拝見した時にはびっくりしました。

○工藤委員長　：たしかに青森ヒバを当たり前のように使っているというのは贅沢なことですよね。もっと PR しても良いのかもしれません。

◎事　務　局　：検討させていただきます。

・本丸内消防設備更新の検討

◎事　務　局　：本丸内の園路整備に先立ち、その下面にある消防設備類の更新を検討しています。今回の会議までに調査が間に合いませんでしたが、消防設備類の更新を目的とし、現在現状把握の進めております。この結果につきましては、今回ご意見を頂戴した整備基本設計の内容と合わせて、後日先生方に資料をお送りしたいと考えております。こちらにつきましては書面でご意見をいただければと考えております。

○工藤委員長　：従前の消防設備では、消化対応が難しいということでしょうか。

◎事　務　局　：現在の本丸内の消防設備は、二から三名の人員がいないと消火が難しい仕様になっています。現在夜間や休日に常駐している警備員さんが一名だということもあり、これを機に一人でも消火可能なものへと更新したいと考えています。

○工藤委員長　：本丸の復原建物は、周辺の住宅からは離れていますし、特に問題が無いようにも感じるのですが。

◎事　務　局　：南側の岡前館にある住宅との距離が近いというご指摘を消防からいただいております。先程話題に上がった法面の木の成長の話しとも前後するのですが、根城は風の強いところですので、火が木に燃え移るとその南側にある住宅にも火が廻るのではないかという内容の指摘でした。このようなご指摘があったために、樹木の除間伐と消防設備の更新を検討しているという次第です。

○北 野 委 員　：　文化庁で出している防災関係の補助と、一般整備とで仕分けしながらやっていくということでしょうか。

◎事　務　局　：仕分けをしてやっていくことを想定しています。

・次回会議

◎事　務　局　：次回委員会は来年度を予定しております。引き続きよろしくお願いいたします。

３．閉会

以上